

人と人のつながりを大切に

～不遇な雇われ時代から起業家へ、未来に挑む～

株式会社北村製作所 代表取締役社長 北村 裕嗣



会社概要・事業内容

NC旋盤、汎用旋盤、ペンチレス、マシニングセンター、NCフライスによる切削加工。φ3～φ250まで加工可能。全長3,000mmまで。単品から1,000個単位まで対応可能。

経歴・会社設立までの経緯

北村裕嗣社長は、近畿大学農学部に進学し、エビの養殖など資源関連の勉強をしながらゴルフ部に所属していました。サラリーマンにはなりたくないことから、卒業後はプロゴルファーをめざして3年間頑張りました。次に、レッスプロをめざして、ゴルフ場で働きながら教えていましたが、運の悪いことにこのゴルフ場が長時間労働で残業代も払わないブラック企業だったため、辞めました。そこで次は、ゴルフクラブメーカーの営業に就職します。売上目標は300万円/月という高い目標を課せられますが、北村社長は持ち前の頑張りで、半年でこの目標を達成しました。しかし、運の悪いことは続きます。この時、北村社長が開拓したお客様を上司が横取りするという事件が起きます。北村社長は腹が立って辞めますが、この時、営業力を身につけるとともに営業の重要性を学びました。次に、資格を身につけるために、行政書士をめざして勉強しながら、鯉節屋で働きました。ここも4年半働きましたが、社長の親族と折り合いが悪く、退社します。行政書士はあきらめて、社会保険労務士事務所を50社以上受けましたが採用されませんでした。

既に30才で、家族も養わなくてはいけませんでした。地道なもののづくりをしたいという考えで、ネジ屋さんに応募したら採用されました。しかし、配属された部署が製造ではなく管理部門でした。2年半我慢しました。部長との人間関係もうまくいかず、また辞めました。

その後、生活のためにトラックの運転手をしながら、旋盤、NCを使って機械加工の仕事をします。北村社長は、この仕事が自分に合っており、心底楽しいことに気がつきます。ペンチレス（小型面取旋盤）の仕事や、ねじ切りの仕事も楽しかったため、ものづくりにどんどん夢中になっていきます。特に改善すること、仕事の効率化に興味を持ちますが、会社の社長から「効率化はいらん。言われたことだけやれ」と言われたことと、給料が全く上がらないことから、ついに独立することを決意します。数々の挫折の経験をしてからの独立です。得意で楽しい仕事のペンチレスで独立です。北村社長には、ペンチレスの仕事は隙間産業ではあるが必ず需要があり、成功する自信があったからです。

起業から現在までと人生設計

独立は2017年7月で、37歳の時です。独立してからはがむしゃらに働きました。日中は仕事確保の営業活動で、夜

は工場でペンチレス、人の2倍働きました。2年間、この生活でお客様の信頼を得てきました。すると2年後の39歳の時に以前働いていたネジ屋の会長から現在の会社（旋盤、NC加工が主体）を紹介され、自分の会社（ペンチレス主体）と統合して、個人から法人化することになります。ネジ屋の会長とは相性がよくありませんでしたが、この時に北村社長は、人と人のつながりが非常に大切だということに気づきます。吸収した会社の2名の合計3名で一緒に仕事をするようになりました。「形のあるものは必ず作れる」「信念を貫き通す」という考えで、いろいろな業界の仕事に挑戦して、今では照明部品・高圧洗浄関連部品が仕事の主流です。自分の人生設計の中では、30歳までに結婚、36歳までに独立という目標がありましたが、ほぼ目標通り29歳で結婚、37歳で独立できました。人生の目標設定の大切さから、企業理念である「私達のものづくりは、充実した人生を作り、時代の変化に応じた新たな製品を創り、皆様の夢が実現するものを造り続けていきます」を策定しました。



海外事業を見据えた将来

北村社長は、製造業は中小企業であるほど営業力が重要だと考えています。毎年約1.5倍売上が伸びているのは、社長の仕事として自社発信、つまり情報収集と異業種とのつながり（人と人のつながり）を大切にしているからです。日中経済交流研究会もその一つで、いろいろな海外文化を見ることで見聞を広め、海外取引をしていきたいと考えています。もう一度、日本の技術力や日本の製品を海外に広めて「Made in Japan」を復活させたいそうです。北村社長には、将来、開発途上国に学校を作るという夢もあります。

人の人と人のつながりを大切にし、当たり前のことを当たり前に思わず感謝することが人生観である北村社長は、一層会社を発展させ、新たなことに挑戦し、さらなる目標を達成し、夢の実現のためにまい進することでしょう。長時間にわたっての報告と工場見学、本当にありがとうございました。

日中経済交流研究会 広報委員会

文：オーツケミカル（株）合田 研吾